

岩手ホスピスの会通信



岩手ホスピスの会（代表：川守田裕司 事務局長：吉島美樹子）

会 員 数 / 221 名 (2022.5.28 現在)

編 集 発 行 / 「岩手ホスピスの会」事務局 〒020-0883 岩手県盛岡市志家町 13-31 川守田方

TEL : 090-2604-7918 FAX : 019-653-6447

郵便振替口座 / 02250-1-60580 E-mail / hospice@eins.rnac.ne.jp

Homepage (岩手ホスピスの会通信) <http://hospice.sakura.ne.jp/>

No. **69**
2022年6月

年度総会開催 ~超高齢社会の中で少しでもその人らしく過ごせるように~

岩手ホスピスの会 2021 年度総会は、2022 年 2 月 19 日(土) 盛岡市総合福祉センターで開催され、事業報告、会計報告、会計監査報告がありました。

★新年度の活動基本方針として、

1. がん患者さんとそのご家族を様々な角度からサポートする。

- ・タオル帽子活動やがん情報の発信、患者さんを支援する栄養講座やホスピスセミナー等の開催、県内各市町村に医療用ウィッグ購入費用助成を要望、がん相談窓口の充実

2. 全国関連団体への積極的活動協力を行い、相互の情報交換を深め、岩手と日本のがん医療・緩和ケアの推進をはかる。がん患者団体支援機構への協力、日総研の季刊誌 エンド・オブ・ライフケアに「患者・家族のエンド・オブ・ライフケア」と題して当会の活動内容を連載

3. 設置された岩手県内各ホスピスの見守りとボランティア協力

4. 東日本大震災により被災した沿岸部への支援。

★岩手ホスピスの会通信年 3 回発行、ホームページ運営、定例役員会は毎月 1 回の予定で行う。一等が提案・承認され、新年度役員が以下の通り選出されました。



2021 年度総会 (2022 年 2 月 19 日、盛岡市総合福祉センター)

《新年度役員》

代表：川守田裕司 副代表：伊藤ヨシ子 事務局長：吉島美樹子

幹事：佐々木順子、浅田京子、藤原弥生、蛇口真理子、高橋敏明、原理子

会計：池乗育代、細川恵美子 監査：菊地克昌、佐々木美穂子

患者さんの心と体の痛みを和らげるホスピスという施設が私たちの身近にあることについて、多くの方に知っていただき、一人でも多くの方が緩和ケア、ホスピスケアを受けられることが私たちの願いです。到来した超高齢社会の中で、互いを思いやり助け合う気持ちを大切にして、できるだけその人らしく過ごせるように、困っている方に必要な支援を届けることを目指したいと思います。

新年度も患者さんにご家族の立場に立ちこれらの問題に取り組み、皆様の願いが少しでもかなえられるように活動していきたいと思ひます。皆様のご協力をお願い致します。

がんの痛みについての映像制作



ご遺族の方にインタビュー

当会では現在がんの痛みに関する映像制作に取り組んでおります。

がんやその治療などに伴う体の痛み。不安や喪失感などの心の痛み。「緩和ケアでがんの痛みやがんの辛さを和らげ、毎日を穏やかに過ごせたら…。」それは患者とその家族にとって大きな願いです。

がん患者やそのご家族の方に、がんの痛みについてお話をしていただき、医療者の方々に患者の痛みについて少しでも理解を深めていただきたい。映像制作スタートの5月8日、ご遺族の方お二人にインタビューを行いました。

これは、これまでなかなか伝わらなかった患者からの思いを映像化するものです。

映像の撮影・編集担当者は、記録屋・大森智加江さんです。

制作した映像は、緩和ケア医師研修で使用するほか、講演会など様々な場面で上映していきます。映像には、患者さんやご家族の声、医療者の声、緩和ケアについての知識や相談窓口の紹介などを盛り込んでいきます。

多くの方に映像を見ていただくことにより、『一人一人の患者に寄り添った、質の高い緩和ケアの実現』への助けとなればと思っています。

タオル帽子 プレゼント

今年も全国9箇所のがん診療連携拠点病院にタオル帽子総数550個を発送しました。お送りしたタオル帽子で患者さんが少しでも笑顔になっていただけることを、ボランティア一同願っております。

送付先病院一覧

2022年6月(1件50個程度)
病院9件 総数550個

岩手県

岩手医科大学附属病院、岩手県立胆沢病院

山形県

山形県立中央病院

岐阜県

大垣市民病院

京都府

京都大学医学部附属病院

愛媛県

愛媛県立中央病院

熊本県

熊本赤十字病院、熊本大学病院

愛知県

名古屋医療センター

がん患者の声 映像制作



がん患者の体験談の収録風景(岩手ホスピスの会提供)

正力厚生会

岩手ホスピスの会に助成

「がん患者らを支援する公益財団法人「正力厚生会」が公募した今年度の助成事業で、県内から患者や家族に体や心の痛みを語ってもらう映像制作する「岩手ホスピスの会」(盛岡市)が選出された。

「岩手ホスピスの会」は、がん患者や家族で構成された。当時の県内には、がん患者の苦痛や不安を和らげる「ホスピス」のような施設がなく、卵巣がんで妻を亡くした川守田裕司代表は、妻の力になれなかったことが心残りだった。そこで、「岩手にもホスピスを作り、緩和ケアを広げたい」と患者や家族で話し合い、同会を作った。現在、約240人の会員がいる。同会はこれまで、がん患者の痛みを理解してもらおうと、講演会を中心に活動してきた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大で思うように活動できなくなったため、映像制作に乗り出した。現在、患者や家族らに闘病の苦しさなどを語ってもらい、映像に収めている。年内に約20分にまとめ、医師の研修会などで上映したいとしている。

川守田代表は「コロナ禍でも映像で当事者の声を紹介し、患者に寄り添った緩和ケアにつなげたい」と話している。

がん患者団体助成事業などの問い合わせは、正力厚生会(03・3216・712)へ。

緩和ケア病棟の入院期間に限度はありますか？

～緩和ケア病棟の入院料（診療報酬）について～

当会を設立する際大変お世話になった仙台市でホスピスの応援や患者さん同士の集まり等を行っている「春風の家」の会報「春風便り」で、緩和ケア病棟の入院料の問題について知りました。

「緩和ケア病棟では入院期間を問わず1日当たり3万7800円だった入院料が、2012年の緩和ケア病棟診療報酬改定で30日以内は同4万7910円、31日～60日は同4万2910円、61日以上は同3万2910円と、入院期間に応じて3段階の点数になった。

緩和ケア病棟への入院待ちが少なくない現実を踏まえ、厚生労働省が緩和ケア病棟に対し、がん患者の在宅療養への移行とその支援の役割も持たせようとした。そのため、入院期間が長くなるほど1日当たりの収入が少なくなるような点数設定にして、自宅復帰を促したわけだ。
(日経BP がんナビより)

しかし、この改定が行われた結果、緩和ケア病棟を利用して自分らしく過ごしたいと願っている患者さんが、最後まで今いる緩和ケア病棟で安心して過ごすことが難しくなるケースが出ているのではないかと危惧しています。実際岩手県内でも2、3年前に同じような体験をされた患者さんのご遺族からお話を聞きましたが、何か例外的なお話かと思っておりました。

しかし、最初から入院期間を30日と決めている緩和ケア病棟もあり、余命1か月と告知され、緩和ケア病棟での療養を勧められた患者さんが、自宅を処分し身の回りもすべて整理して緩和ケア病棟に入院したが、入院1か月が近づいたころ病院から「まもなく入院1か月なので退院して下さい」と迫られて、帰る家もなく途方に暮れたという例も実際にあったそうです。
(青梅社発行「緩和ケア」より)

当会では今回、この件について県内の現状を各緩和ケア病棟にお聞きしました。
結果は以下の通りです。

質問：緩和ケア病棟入院期間に限度はありますか？その理由もお書きください。

岩手医科大学附属病院緩和ケア病棟：限度無し

盛岡友愛病院緩和ケア病棟：限度なし 開設当初からのホスピス医の意向

盛岡赤十字病院緩和ケア病棟：「限度なし」理由一病状と患者様の希望を確認しながら対応しているため

孝仁病院緩和ケア病棟：「限度なし」です。入院期間の限度がないので安心して療養して頂けます。

岩手県立中部病院緩和ケア病棟：現在2か月程度としておりますが、病状等により増減あり。

美山病院緩和ケア病棟：限度なし。体調が落ち着くことで緩和ケア病棟での療養が不要になったり、患者さんに合わない状況になれば、相談の上療養場所を変更する場合があります。

岩手県立磐井病院緩和ケア病棟：無料室は60日以内、有料室は限度なし

お聞きした結果、県立病院ではある程度限度を決めており、県立病院以外は限度なしでした。なぜそうなっているのか、今後確認していきたいと思います。



盛岡友愛病院緩和ケア病棟

岩手ホスピスの会とタオル帽子ボランティアへの メッセージ (2021年11月～2022年4月)



当会のタオル帽子を受け取ったがん診療連携拠点病院から寄せられたメッセージをご紹介します。2008年6月からスタートしたタオル帽子発送はこれまで105,650個に上っています。今日もどこかでタオル帽子の活動に思いを寄せている方がいます。帽子を作るボランティアの皆さんに深くお礼申し上げます。

*お顔も、お名前も知らず離れたところに居ても、温かいお気持ちで支えて下さる会が有ることを初めて知りました。皆様のこの優しい活動が広がり続けていきますようにと願っております。東京は桜の満開も過ぎ花水木の蕾がふくらみ始めました。岩手はまだまだ冷たい風の頃でしょうか。どうぞ皆様お大切にお過ごし下さいませよう。

(東京都)



盛岡二高 タオル帽子講習会

*この度は早速にタオル帽子と型紙をお届け頂きまして、ほんとうにありがとうございました。何をどのように準備すれば良いのか不安に思っておりましたので、温もりのあるタオル帽子が届き、まず一つ準備が出来たとホッといたしました。お作り下さいました佐々木昌子様とても気に入りました。ありがとうございます。

(地域不明)



フェイスタオルご寄付のお願い

皆様にお願ひがあります。ボランティアさんがタオル帽子を作るためのフェイスタオルがとても不足しております。どのようなものでも構いません。ご家庭で眠っているタオルがありましたらぜひご協力をお願いいたします。

〈送付先〉 〒020-0883 岩手県盛岡市志家町13-31 岩手ホスピスの会宛

タオル帽子を作りたい方へ

※タオル帽子を作りたい方へ型紙をお譲りしています。申し込み方法：はがきかメールで。

※メールアドレス：hospice@eins.rnac.ne.jp

はがき：〒031-0823 青森県八戸市湊高台6-4-22 吉島方「岩手ホスピスの会」

これからのタオル帽子講習会・サロン日程

7月9日：タオル帽子講習会・サロン

8月20日：タオル帽子講習会・サロン

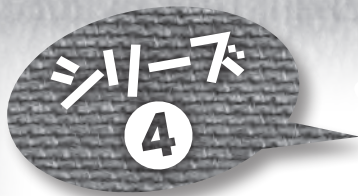
9月10日：タオル帽子講習会・サロン

●場所：盛岡市総合福祉センター

●開催時間：午後1時30分から

●問い合わせ先：080-1658-1762

※型紙のコピーはご遠慮願ひます。型紙の必要な方は当会へお問い合わせください。



岩手のがん相談支援センター 岩手県立中部病院

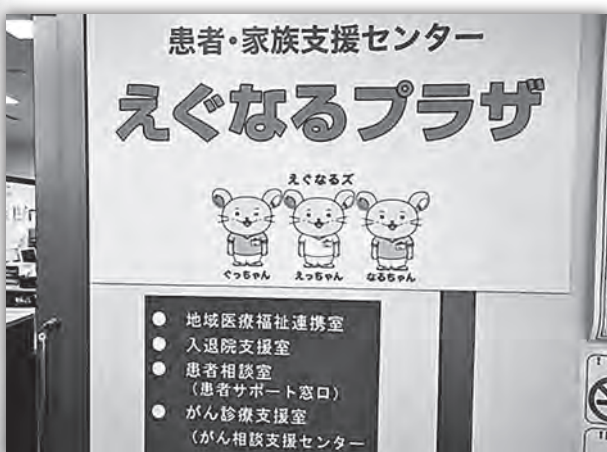
当院は、平成21年4月1日、県立花巻厚生病院と、県立北上病院が統合し、県立中部病院として開院しました。同時に、地域がん診療連携拠点病院に指定され、がんの積極的な治療を提供するとともに、各科外来、病棟スタッフの他、がん相談支援センター、がん情報サロン、ペインクリニック、緩和ケア外来、緩和ケアチームなど、多数の部門が、患者さん、ご家族を支えています。

がん相談支援センターは、1階総合待合スペースにある、「えぐなるプラザ（患者・家族支援センター）」内に設置されています。がん相談は、主に看護師と医療ソーシャルワーカーが、平日9時から17時に対応しています。当院受診の有無に関わらず、患者さん、ご家族、地域住民、医療従事者などどなたでも無料で相談ができます。匿名の相談も可能ですし、直接お会いしての相談、電話での相談も対応しています。相談内容は、基本的には相談者の同意なしに主治医や第三者に伝わることはありません。

相談の内容は、治療に関すること、がんを抱えながらの生活や仕事に関すること、経済的なこと、緩和ケア・緩和ケア病棟についてなど実に様々です。お話を伺いながら、相談内容に合った情報を提供したり、適切な資源や専門職を紹介することもあります。お話を伺うだけの方もいます。「相談できる場がある」、「いつでも話を聴いてくれる人がいる」ことが安心につながると話された方もいらっしゃいました。

患者さん、ご家族が抱える悩みや問題を一緒に考える場として、また不安やこころのつらさを表出する場としてご利用いただければと思います。

岩手県立中部病院 がん相談支援センター
看護師 長谷川夕子



お問い合わせ先

岩手県立中部病院 がん相談支援センター（医療相談室内）住所：北上市村崎野17地割10番地
電話：0197-71-1511

対応日時：月曜日～金曜日：9時～17時（土・日・祝日、年末年始を除く）

ご利用方法：直接お越し頂くか、近くの職員にお申し出ください。電話でのご相談、予約も承ります。

岩手県内各ホスピス現況

(岩手ホスピスの会調べ 詳細は)

	孝仁病院 緩和ケア病棟	盛岡赤十字病院 緩和ケア病棟	盛岡友愛病院 緩和ケア病棟
住 所	盛岡市中太田泉田 28	盛岡市三本柳 6 地割 1 番地 1	盛岡市永井 12-10
電 話	019-656-2888 医療福祉相談室	019-637-3111 (代表) 緩和ケア相談室 内線 338	019-638-2222 (代表) 医療相談室 緩和ケア担当 内線 185
病 床 数	10 床	22 床 (全室個室)	18 床
ベ ッ ド	無料個室 8 床 有料個室 2 床	無料 12 室 有料 10 室	個室 10 床のうち 9 床が有料 4 床室無料
ベ ッ ド 料	1 日 3,300 円	1 日 5,500 円・11,000 円	1 日 5,500 円
看 護 師 数	16 名 + 看護補助者 1 名	21 名 + 看護補助者 2 名	16 名 + 看護補助者 4 名
ホスピス医	米山幸宏	畠山元、旭博史	藤井祐次
看 護 師 長	栗木真由美	木下香代子	上山志鈴江
入 院 審 査 を 受 け る に は	地域連携室にご相談ください。 月～水・金・土曜 9:00～17:00 木曜 9:00～12:30	緩和ケア相談室へお問い合わせ ください。 月～金曜 9:00～16:00	医療相談室まで。 019-638-2222 (代表) 月～金曜 9:00～17:00 土曜 9:00～12:30 (第 2・4 土曜は不可)
審 査 日	随時	随時	随時
ホスピス入院 平均待機者数	0～3 名	0	0～2 名
ホスピス入院 平均待機期間	状況により数日～2 週間 重症者優先	外来受診後、平均 5 日	状況により数日～1 週間 (患者さんの 意向を確認後、一般病棟で対応する 場合があります)
利 用 者 内 訳	盛岡市周辺がほとんど (8 割以上)	盛岡市周辺の方がほとんど	盛岡市周辺の方がほとんど
緩和ケア外来	診察日: 月～水・金 8:30～16:30 要予約 木・土 8:30～11:30 要予約 担当医: 米山幸宏	診察日: 火・水・木 14:30～16:00 要予約 担当医: 畠山元、旭博史	診察日: 水・木・金 (AM・PM) 要予約 担当医: 藤井祐次
ホスピスボ ランティアの 人 数 と 活 動	登録者 6 名 ※感染拡大防止のため休止中	病院ボランティア登録者 25 名。 うち 23 名がホスピスで活動。 ※現在、コロナの影響のため 休止中	年 1 回程度イベント時活動 ※現在、コロナの影響のため 休止中
遺 族 会 の 名 称 と 連 絡 先	名称: ひだまりの会 年 2 回開催 連絡先: 緩和ケア病棟 栗木 ※感染拡大防止のため休止中	ハナミズキの会 緩和ケア病棟 年 1 回開催 ※現在、コロナの影響のため 休止中	設置未定
入 院 料	定額制 (3 段階…診療報酬上の緩和ケア病 棟入院料に準じます) 保険適用	定額制です。 入院日数によって 3 段階での算定 です。	定額制。入院期間により 3 段階。患 者さんの自己負担額は加入している 保険等により異なる。 各種医療保険適用、医療費の他に食 事代別途徴収。
ペットの同伴	面会可能。宿泊不可。要相談。	面会は可能。宿泊や飼育は不可	面会のみ可能。条件あり。 要申請。
麻 酔 医 と の 連 携	必要時可能	硬膜外ブロックなどを行う場合など に連携あり。	なし

(2022年4月現在)

各病院に直接お問合せ下さい)

岩手医科大学附属病院 緩和ケア病棟	岩手県立磐井病院 緩和ケア病棟	岩手県立中部病院 緩和ケア病棟	美山病院 緩和ケア病棟
紫波郡矢巾町医大通2丁目1番1号	一関市狐禅寺字大平17番地	北上市村崎野17地割10番地	奥州市水沢羽田町字水無沢495-2
019-613-7111(代表) 緩和ケアセンター 内線3223	0191-23-3452	0197-71-1511	0197-24-2141
25床	24床(個室20、2床室2)	24床(個室18、2床室3)	20床(全室個室)
無料個室17床 有料個室8床	無料17床 有料7床	有料個室10床、無料室14床	無料20室
1日18,700～25,300円	1日3,190～6,490円	1日3,300～13,420円	無料
25名+看護補助者1名	18名+看護補助者1名	17名+補助3名	17名+ケースワーカー1名+看護補助者5名
木村祐輔、鴻巣正史、中村清華	平野拓司	星野彰、綿引奈苗	及川司
竹内可愛	田頭浩子	菊池恵美子	小林洋子
緩和ケアセンターに 相談ください。 019-613-7111 内線3223 月～金曜 8:30～17:00	0191-23-3452(入院相談等) がん相談支援センター 相談時間:平日8:30～17:15	0197-71-1511(入院相談他) がん相談支援室 相談時間:平日9:00～16:00	入院相談(担当:ケースワーカー) 後面談 入退院検討会(医師、薬剤師、 栄養士、看護師、理学療法士 で構成)
随時	随時	随時	随時(その後ベッドが空くまで待機)
0～3名	0	3～4名	0
状況により数日～1週間程度	数日(緊急対応可)	待機期間は同院一般病棟や 近隣の病院、連携のとれている 訪問診療で対応	0
盛岡市周辺の方が多い	一関市周辺や宮城県北の方が ほとんど	花巻北上周辺の方が8割以上 その他は奥州、盛岡等	奥州市周辺の方がほとんど
診察日:月～金、要予約 担当医: 木村祐輔、鴻巣正史	診察日:月～金、要予約 担当医:平野拓司	診察日:月～金の午前、 要予約 担当医:星野彰	診察日:水(午前中) 要予約 担当医:及川司
実績無し 活動検討中	ボランティアコーディネーター 1名、ボランティア12名 活動:ティータイム、季節の行事、 がん患者サロン(こころば)	登録者39名。 活動内容:お茶会・歌っこの会・ アロマ・生け花・季節のイベント 企画(コロナ禍にて、現在活動 は生け花とイベントの一部のみ)	現在登録者5名で活動中。 ホスピスボランティアを 随時募集中
設置未定	偲ぶ会(連絡先:緩和ケア病棟) 当院緩和ケア病棟でお亡くなり になった方のご遺族の方のみ 年1回開催	偲ぶ会 緩和ケア病棟 (0197-71-1511) 当院緩和ケア病棟でお亡くなり になった方のご遺族の方のみ 年1回開催(令和2、3年度は中止)	<small>しちせき</small> 七夕の会 緩和ケア病棟 (0197-24-2141) 当院緩和ケア病棟でお亡くなり になった方のご遺族の方のみ これまでに7回開催
定額制 (診療報酬上の緩和ケア病棟 入院料に準じて入院期間により 3段階) 保険適応	定額制(入院期間により3段階) ただし、定額に含まれない加算 や有料個室の料金等は別途追 加になります。	定額制(入院期間により3段階) ただし、定額に含まれない加算 や有料個室の料金等は別途追 加になります。	定額制 3段階になります。
面会のみ可能。宿泊不可。 条件有。要申請	要申請。ケージに入る小型犬が 望ましい。大型犬は要相談。	面会可能。宿泊不可	面会可能(現在はリモート面会 のみ。状態を見ながら必要時面 会しています)。宿泊不可
必要時可能	なし	院内ペインクリニックと連携	なし

がん患者さんのための栄養講座 パート 28

岩手県立胆沢病院 がん病態栄養専門管理栄養士 蛇口 真理子



新緑のきれいな季節を迎えましたが皆さんはいかがお過ごしでしょうか。少しずつ気温も高くなり、暑い日も増えてきますね。今回は一足早いですが、夏にぴったりの「さっぱりトマト素麺」を紹介します。ツナや豆乳を使用することで、たんぱく質もしっかり摂取できます。

さっぱりトマト素麺 1人前 285 kcal

材料 (2人前)	分量
素麺 (食欲に応じて調整)	100g
トマト	中 2 個
ツナ缶	1缶 (70g)
めんつゆ (3倍濃縮)	50ml
豆乳	200ml
きゅうり	1 / 3 本



作り方

- ① トマトは1 cm角に切る。きゅうりは千切りにしておく。
 - ② ボールにトマト、ツナ缶、めんつゆ、豆乳を入れ、混ぜる。冷蔵庫で冷やしておく。
 - ③ 素麺は、茹でて、流水で冷やし、ぬめりを取っておく。
 - ④ 器に素麺を盛り付け、②をかける。千切りきゅうりを添える。
- ☆ちょっとアレンジ トマトが手に入りにくい季節はトマト缶で代用。(分量) トマト1個→トマト缶 100g

【栄養でがん治療を支える ～がんだから痩せるのは当たり前?～】

当会で、「がん患者さんのための栄養講座」を始めて、13年になります。講座を始めたきっかけは、会員さんから「食欲がなく体重が減っていく。何を食べたら良いの。」という相談があったことです。

ある研究では、がんと診断された時点で患者さんの半数に体重減少がみられるという報告もあります。

しかし、外来診療では、医師や管理栄養士に「痩せた」と相談される方が少ないように感じます。

患者さんや家族は、がんになってから痩せたと感じていても、「術後だから…」、「痩せたと言ったら抗がん剤が続けられなくなるのでは…」と思って、相談をしないという方もいらっしゃるかもしれません。

がん患者さんの体重減少では、骨格筋(筋肉)が低下しやすいことも特徴です。骨格筋が低下すると、だるさが出て、活動量が低下していくことにつながります。骨格筋量を維持するためには、たんぱく質の摂取が重要です。分岐鎖アミノ酸 (BCAA) は筋肉を維持するために必要な栄養とされ、まぐろ、かつお、あじや肉類、卵に多く含まれます。今回、紹介した「さっぱりトマト素麺」で使用しているツナもまぐろです。このように普段の料理で摂取できますが、量がたくさん食べられない時は、①魚や肉のおかずを優先して食べる、②栄養補助食品(エネルギー飲料など)なども活用していくこともよいと思います。体調が良い時はウォーキングなどの軽い運動も合わせることで体力づくりやリフレッシュになります。体重が気になった際は、治療の時期に合わせた栄養療法がありますので、主治医や管理栄養士に相談をしてみましょう。

コロナ感染症の影響で、対面での講座をお休みしていましたが、今年は皆さんとお会いして、治療中の食事について、一緒に考えていきたいと思っています。

参考文献「認定 NPO キャンサーネットジャパン もっと知ってほしいがん和生活のこと」

***** 岩手ホスピスの会活動日誌 *****

2022年1月～5月

1月8日	第1回役員会、タオル帽子サロン・講習会、通信発送作業 (盛岡市総合福祉センター、28名)
1月22日	タオル帽子倉庫作業 (盛岡市タオル帽子倉庫、5名)
2月5日	第2回役員会 (盛岡市総合福祉センター、10名)
2月12日	映画「いのちの山河」上映会 (盛岡劇場、140名)
2月19日	岩手ホスピスの会 2021年度総会、タオル帽子サロン・講習会 (盛岡市総合福祉センター、35名)
2月22日	盛岡市医師会主催・緩和ケア研修会参加 (盛岡市内、1名)
3月11日	岩手県保健福祉部医療政策室で加藤特命課長と面談 (同室、1名)
3月12日	第3回役員会 (盛岡市総合福祉センター、9名) つむぐイルミネーション2022参加 (陸前高田市川原川公園、3名)
3月13日	陸前高田市の困窮家庭の子供たちにお弁当配布プロジェクト協力 (陸前高田市、2名)
4月3日	日総研の雑誌「地域連携」に「患者・家族のエンド・オブ・ライフケア」連載記事原稿送付
4月9日	第4回役員会、タオル帽子サロン・講習会 (盛岡市総合福祉センター、29名)
5月8日	がんの痛みに関する映像制作・遺族へのインタビュー (盛岡市総合福祉センター、5名)
5月14日	第5回役員会、タオル帽子サロン・講習会 ～がんの痛みに関する映像制作・遺族へのインタビュー (盛岡市総合福祉センター、34名)
5月21日	読売新聞から「がんの痛みについての映像制作」について取材 (盛岡市タオル帽子倉庫、3名)
6月11日	第5回役員会、タオル帽子サロン・講習会 ～がんの痛みに関する映像制作・患者へのインタビュー (盛岡市総合福祉センター、30名)

「岩手ホスピスの会」がん相談窓口



開設日	毎月第2土曜日 午後1時30分～4時 (月により変更あり。要問合せ) 相談無料
場所	盛岡市若園町総合福祉センター内 タオル帽子サロン会場 (月により変更あり)
内容	電話相談：がん全般についての相談に対応致します。 直接面談：上記会場に来院して頂き対応 ※事前にお電話いただければ、相談内容に合ったスタッフが対応致します。
問合せ	岩手ホスピスの会 090-2604-7918

新年度継続とご支援のお願い

(年会費が一口2,000円になりました)

皆様からのあたたかなご寄付、ご支援をいつも本当にありがとうございます。

岩手ホスピスの会が、がん患者さんやご家族に寄り添い活動できる支えは、皆様のご支援によるものです。今後も安定した活動を継続するため、ご理解とご支援をお願いいたします。

2022年度会費(2022年1月～2022年12月分)を郵便局にて、振込用紙に住所、氏名を明記の上お振込みをお願いいたします。

ご住所の変更があった方はご連絡をお願いします。

年会費：2,000円(複数口可) 郵便振替：02250-1-60580 岩手ホスピスの会

ありがとうございました。

タオルをご寄付いただきました。

第一生命盛岡支社様、トータルサポート唯一様、大和ハウス工業株式会社様

第2回「いのちの山河」上映会開催

昨年の上映会が大盛況だったため、2022年2月12日(土)に盛岡劇場で開催した第2回「いのちの山河」上映会にはコロナ禍にもかかわらず140名を超える来場者があり、再度県民の皆さんの関心の高さと熱い心を感じました。当日は岩手県保健福祉部長・野原勝氏にご祝辞をいただき、地元・西和賀町からは上映終了後のミニトークでNPO法人深澤晟雄の会会員・高橋光世氏と同会理事長・加藤和夫氏に上映終了後のミニトークを行っていただきました。

2年にわたるいのちの山河上映会を通して、生命を尊重する行政と医療の大切さを学び、憲法25条を盾に老人・乳児医療無料化を推し進めた沢内村の歴史を思い起こし、憲法改正の是非が問われる現在、改めて日本国憲法の意義について考えることができたのではないかと思います。また、日本人がこれまで経験したことの無い超高齢社会の到来に多くの人々が戸惑う中、多死社会でのそれぞれの生き方、それぞれの死への選択が迫られておりますが、もう一度民主主義の原点に立ち返り、いのちに格差はなく、社会的弱者には皆で手を差し伸べ、互いに助け合う優しい社会作りが必要だと上映会に参加した多くの方が感じたのではないかと思います。



岩手県保健福祉部長・野原 勝氏



上映終了後のミニトーク



今回も多数の来場者がありました。

☆昨年11月、盛岡市のがん患者会かたくりの会と当会は、医療用ウィッグ購入費用助成要望書を県内17市町村に発送しました。その際助成を行っていたのは16市町村のみでしたが、下記の通り令和4年度から26市町村が助成をスタートしました。

県内26市町村 購入費助成

がん患者らが使用する医療用ウィッグの購入費助成は本年度、県内26市町村が実施している。県が2020年度に市町村への費用の一部補助制度を開始して以来導入が進み、2万〜3万円を上限に補助する自治体が多い。治療と社会参加の両立支援に大きな力となっている。

岩手日報社のまとめによると、21年度までは盛岡や奥州など16市町村が実施。本年度から新たに大船渡や矢巾、九戸など10市町村もスタートした。検討中は八幡平と軽米、山田の3市町で、久慈と大槌、西和賀、田野畑の4市町村は実施を見送っている。

北上市は患者や家族の要望を受け、県内で最も早い05年度に導入。購入経費の10分の9、上限3万円を支援し、20年度の制度利用は33件に上った。医療用ウィッグは数万円から購入できるが、オーダー品は高額になるという。

医療用ウィッグ

母や義妹をがんで亡くした盛岡市下米内の佐々木順子さん(73)は「体力の消耗が激しいためタクシーで通院するなど、がん治療はウィッグ以外にもお金がかかる。金銭面を気にすることなく、活躍しながら治療も受けられるようになってほしい」と願う。

矢巾町の岩手医大付属病院が院内に設置するがん患者・家族サロンのスタッフ神原栄子さん(64)も「助成制度があれば患者も治療に対して前向きになれる」と説明。がん患者や家族を支援する盛岡市の岩手ホスピスの会や紫波町の盛岡かたくりの会も、県の制度を活用した購入費助成の拡充を求めている。

「がんのリハビリテーション」とは

～今この瞬間を大切にする関わり～

盛岡友愛病院 リハビリテーション技術部
理学療法士 鈴木麻美

「がんのリハビリテーション」とは、がん患者の生活機能と生活の質(QOL)の改善を目的とする医療ケアであり、がんとその治療による制限を受けた中で、患者に最大限の身体的、社会的、心理的、職業的活動を実現させることと定義されています。このリハビリテーションは医師の指示により、入院中の患者さんへ、主に理学療法士・作業療法士・言語聴覚療法士から提供されます。

当院では、緩和ケア病棟に入院中の患者さんにおいてもリハビリテーションを行っています。がんの終末期には、様々な症状(全身のだるさ、息苦しさ等)により、やりたいことが出来ない時間が増えてしまう方が多くいらっしゃいます。当院で行っているリハビリテーションは主治医の指示のもと、

- ① 身体の状態を総合的に診察し、現在の身体筋力や体力に対して適切な運動(筋力トレーニングやウォーキング、ストレッチ)を実施します。
- ② 身体の状態に応じて動きやすい方法や歩き方の指導を行います。
- ③ 外出や退院のサポート(介助を要する方には本人・家族への動作の指導)を致します。
- ④ 体調が優れず運動が困難な時期には気分転換を図れる様な活動、リラクゼーション 等多岐にわたる介入を実施しております。

一般的にリハビリテーションという言葉は、緩和ケアと相反する印象を受けるかもしれませんが、しかし、実際には患者・家族の希望に沿い、最期まで身体機能・活動レベルを最大限に維持・向上することはその人らしさを保つことに繋がります。さらに「治療が続けられている」という心理的な支え・QOLの向上、そして尊厳を保つことにも繋がっています。

当院の「がんのリハビリテーション」では、患者・家族の笑顔を引き出すよう関わり、「今この時を大切にする」一助となれるよう尽力していきたいと考え、日々の診療に取り組んでおります。



※ 1：理学療法士と歩行維持の為、有酸素運動を実施



※ 2：作業療法士と友人への贈り物を作成中

友愛病院のがんのリハビリテーションを利用した患者さんのご家族からの声

「夫が緩和ケア病棟に入院した際お世話になりましたが、リハビリテーションがあったおかげでそれまで歩くのが難しかった主人が一時的に歩けるようになり、できなかったことができるようになって本人の喜びに繋がりました。」(70代女性)

東日本大震災 11年目の被災地報告

東日本大震災11年目の陸前高田市を訪問しました。岩手県内及び他県からやって来た多くの被災地支援団体が、震災から10年の節目で活動から撤退した中、私たちが震災の年からお伺いしている陸前高田市のイベント「高田に輝(ひかり)の花を咲かせよう」を主催する地元メンバーの方々は、イベントの名称を「つむぐ」と変え、今年は昨年以上に規模を拡大して光のセレモニーを開催し、家族や友人たちを偲んでいました。

震災で命を落とした消防団員・菊池勇輝さん(当時25歳)の同級生のひとり、同実行委員会委員長の松村幸祈さんは、「これからもたくさんの方々にこのイベントを見てもらいたい。」と話していました。

時は移り、震災に関する世間の関心は薄れつつありますが、その分被災地の方たちの亡くした人を思う気持ちは更に際立ち、さらに深い思いを紡いで11年目の夜を照らし出しているようでした。

(2022年3月12日)



河北新報 3月11日

春休みの子供たちにお弁当を配布



陸前高田市のボランティア団体「子供支援ネットワーク」は3月14～16日の三日間、同市子供支援課、同市社会福祉協議会と協働で、同市の困窮家庭18世帯61名にお弁当を配布しました。

春休みに入り給食を食べられない家庭の子供たちへの配慮として行ったもので今回初の試み。お弁当作りはNPO子供支援ネットワークが行い、各家庭への配達は同市社会福祉協議会が担当。

今回のメニューは、「主菜：りんごソースのハンバーグ、魚のから揚げ 副菜：大根サラダ、青菜の辛子和え、オクラと山芋の和え物」で、これに岩手ホスピスの会からもおやつとして「チョコダイジェスティブビスケット」を各家庭分計35箱プレゼントしました。このおやつは、いつも当会のタオル帽子活動にご協力いただいている埼玉県の石川武司様からご提供いただいたものです。お弁当は子供たちにとっても好評で、関係団体は今後もこの試みを継続して行きたいと考えているということです。